



伊勢のごせんぐう



写真は、平成25年お白石持行事時のものです

伊勢神宮内宮ご鎮座二〇二〇年をお祝いし、
内宮参集殿能舞台で木遣りを披露します。
九月二十五日は内宮へご参拝ください。

奉祝 伊勢木遣り

内宮ご鎮座二〇二〇年奉祝行事

開催日 平成28年 9月25日(日)
開催場所 内宮参集殿能舞台

第十代垂仁天皇26年(西暦紀元前4年)皇女倭姫命により天照大御神は伊勢国宇治郷、五十鈴川上の現在の地を永遠の鎮座地と定められたとされています。それから伊勢は歴史を重ね、平成28年、ご鎮座2020年を迎えました。

伊勢の民として、奉祝の意を表したいと考え、「お木曳、お白石持行事」を継承されてきた神領地各団にお声かけし、伝統ある伊勢の木遣りの披露をもつて奉祝行事を実施する事となりました。

全国の名だたる伝統芸能が奉納される特別な場である内

宮参集殿能舞台での木遣り披露は、伊勢の市民にとっても初の晴舞台です。参加の団、それぞれが祭り装束で、異なる歌詞や節回しなどそれぞれの伝統を受け継ぐ個性豊かな伊勢の木遣りが次々と披露され、見応えがあることと思います。

9月25日は、参加される団のみならず、この機会にあわせ、お誘い合わせて内宮参拝へお出かけください。参集殿の舞台での木遣り衆の晴れ姿をぜひ多くの参拝者そして伊勢市民の皆様にご覧頂きたいと思ひます。

■参加団、時間等は裏面をご覧ください

内宮ご鎮座二〇二〇年奉祝行事 予定表

日時：平成28年9月25日(日) 9:00～14:40
9:20～ 木遣り披露

団名	木遣り開始時間
(開会)	9:00
1 宇治奉献団	9:20
2 楠部町	9:30
3 伊勢古市木遣り保存会	9:40
4 桜が丘木遣り衆	9:50
5 宮町	10:00
6 常磐第一	10:10
7 常磐西世古翠紅社	10:20
8 浦口町お木曳保存会	10:30
9 神社港辰組木遣り部	10:40
10 宮後町	10:50
奉祝行事ナレーション	11:00 ～ 11:05
11 通町青年部	11:05
12 小川町勢勇団	11:15
13 船江神習組	11:25
14 一之木町須原団	11:35
15 岡本町江楓会	11:45
16 岩渕青瀧会	11:55
17 河崎六ヶ町	12:05
18 八日市場町篤友会	12:15
19 曾祢町木遣り保存会	12:25
20 徳川山	12:35
奉祝行事ナレーション	12:45 ～ 12:50
21 中島豊流団	12:50
22 馬瀬町	13:00
23 黒瀬町橘栄社	13:10
24 豊栄会	13:20
25 前山町養命団	13:30
26 宮沼連合	13:40
27 二見浦茶屋木遣保存会	13:50
28 莊心會	14:00
29 今一色区自治会	14:10
30 小俣町奉曳車保存会木遣り部	14:20
31 新開木遣り保存会	14:30

※時間は進行の関係で変更する場合がありますのでご了承ください。
1団体の披露時間は約10分です。

◆第2号の間違い箇所のお詫びと訂正について

前号(3/31発行)「伊勢のごせんぐう 第2号」表紙文面に以下の表記の誤りがございました。ここにお詫びして訂正させていただきます。

- ・倭姫 ⇒正しくは 倭姫命
- ・九代垂仁天皇 ⇒正しくは 十一代垂仁天皇



神領地の三十一団が
自慢の木遣りを奉祝披露。

内宮(皇大神宮)のご鎮座二〇二〇年にあたり、伊勢の民としてご神徳への感謝を込めて、奉祝の意を表す特別な行事となりました。御遷宮に関わる伝統ある民俗行事「お木曳、お白石持行事」を継承する神領地の31団の木遣り有志にご参加いただきます。

この伊勢の神宮奉祝の機会に、ぜひ足をお運びください。

奉祝

参集殿で伊勢木遣り

伊勢の木遣り

伊勢の木遣りは、お木曳の時や、祝儀歌として神事のおめでたい時に唄われ、また、伊勢音頭のルーツのひとつだともいわれています。室町時代に御木を奉曳するときに木遣り唄が唄われていたという記録があるので、お木曳の歴史とともに、伊勢に伝えられてきた独自の文化といえるでしょう。

その伝えられている歌詞は地域の特徴を詠み込んだり、時代に合わせて作り替えたり、流行唄の文句を巧みに取り入れるなどの遊びの要素も多く、また奉曳団ごとに節回し、衣裳、演出などに違いがあり、地区ごとにも特徴があるなど、ひとくくりにできない興味深いものです。

参集殿にて同時開催

写真家・松原豊氏 お白石持行事 写真展

平成25年お白石持行事の記録として撮影した松原豊氏の写真を参集殿に一部展示します。あの暑い夏の記憶が甦ります。併せてご覧ください。
(9月25日開催当日のみ)





有名なお祭りの、代表的な踊り連が観覧できる他にない機会ということで、「祭のまつり」には県外からも多くのファンが訪れます。

■今年は外宮前大通り広場会場／勾玉池奉納舞台で観覧いただけます。（雨天の場合：伊勢市観光文化会館・伊勢シティプラザ）

10月15日(土)外宮前大通り／勾玉池奉納舞台



10月15日(土)外宮領／16日(日)内宮領



初穂曳（三番車／特別神領民奉曳）



初穂曳（川曳）

神嘗奉祝祭の主となる催事として、その年に収穫されたお初穂、お米を神宮へ奉納する「初穂曳」が行われます。初穂曳は神嘗祭をお祝いする伊勢にふさわしい行事として、また伊勢の民俗行事である「お木曳行事」「お白石持行事」の伝統継承という意義を踏まえて、昭和47年から開催されています。

エンヤーの声が秋空に響く、伊勢の民俗行事。15日、外宮領陸曳では、3台の奉曳車を使用。お木曳お白石持の荷締め技術を伝えようと、それぞれの車にお木樽そして米俵が積まれ、たわなに実ったお初穂が飾られています。伊勢市民や県内外の特別神領民など、約1500名が参加し、「祭のまつり」会場を運行します。

16日の内宮領は、初穂船を曳き五十鈴川をさかのぼる川曳です。今年は四郷地区が運行を担当します。

日本の祭りが、日本の心が伊勢に集まる

祭のまつり

伊勢では明治時代から、神宮の神嘗祭をお祝いする市民のお祭りを開催してきました。現在は「神嘗奉祝祭」として奉祝行事が行われています。「祭のまつり」と銘打ち、日本各地から伝統あるお祭りが来勢するようになつて平成28年で16年目となりました。例年お祭り団体の一人ひとりが新米を携えて奉納のために来訪し、素晴らしい踊りや唄で、「お伊勢

さんのお正月」をお祝いでいただいています。一年に一度、日本三大民謡、三大盆踊り、三大パレードをはじめとする日本各地の祭りが来勢。今年は19団体が参加します。これだけのお祭りが一同に揃い、賑やかにそして華麗に響演できるのは伊勢ならでは。神嘗祭に、お伊勢さんへの熱い思いとが響きあう、これこそが日本の「祭のまつり」です。



陸曳・川曳で新穀を奉納

初穂曳

はっほびき

十月十四日・十五日・十六日
かんなめほうしゆくさい

神嘗奉祝祭

開催

神嘗祭をお祝いするため、地元神領民や特別神領民は神宮に、新穀を奉納する行事「初穂曳」。そして、全国からは著名なお祭りが伊勢に集い、神宮への感謝の想いを込めて、踊りや演舞などを奉ります。収穫の喜びと五穀豊穡の感謝を皆で分かち合う、それが神嘗奉祝祭です。

10月14日（金） 前夜祭
会場 三重県営サンアリーナ
開催時間 16：20～21：00

10月15日（土） 祭のまつり
会場 外宮前大通り・勾玉池奉納舞台
開催時間 11：20～15：20

10月15日（土） 初穂曳（外宮領陸曳）
会場 高柳商店街～外宮周辺
開催時間 10：00～12：30

10月16日（日） 初穂曳（内宮領川曳）
会場 五十鈴川 浦田橋～宇治橋
開催時間 10：00～14：30

神宮のお正月 神嘗祭

「瑞穂の国」の実りを祈る神宮の、一年で最も重要なお祭りです。

天照大御神が瓊瓊杵尊（にぎのみこと）に稲穂を授けた日本のはじまり、神話の時代からずっと、人々はお米を命の糧とし、豊作を願い、実りに感謝の祈りを捧げてきました。



このお米を収穫する秋、神宮では、一年で最も重要な「神嘗祭」（外宮10月15日・内宮16日）が行われます。その年に穫れた新穀を神様に捧げ、五穀豊穡に感謝するお祭りで、祭器具などをすべて新しくして行われるため神宮のお正月とも言われます。神様に「こちそうを召し上がってください、日本国の安寧などを祈る神嘗祭は、闇に包まれた深夜におごそかに斎行されます。

外宮10月16日の正午と、内宮17日の正午には、皇室から差遣された勅使が幣帛神様への供え物を正宮に奉納する「奉幣の儀」があり、そして、ご正宮の玉垣には、天皇陛下が自ら育てられた御初穂とともに、全国から奉獻された稲穂の束「懸税」（かけちから）がかけられます。

10月14日(金)三重県営サンアリーナ

前夜祭

恒例となった「祭のまつり」

例年、神嘗奉祝祭の前夜は、全国各地から伊勢に到着した祭り団体、その演舞や民謡をアリーナの大舞台で披露してくれます。

16時30分のオープニングから、20時15分の参加団体による賑やかな総踊りまで次々と繰り広げられる舞台は、見ごたえたっぷり。フィナーレを飾る花火に至るまで、メインアリーナ会場は入場無料、出入り自由です。

■アクセス／シャトルバス13時30分より
宇治山田駅からサンアリーナ会場まで運行。



全国各地からのお祭り踊り連による「総踊り」（サンアリーナ）